

第3章 校区を調べる

「身近な地域」の学習は自主編成で

この小単元は、完全に自主編成で授業が可能である。しかし、その裏返しとして、もっともやりにくい単元でもある。教科書に地域の調べ方が例示してあるが、伝統的な地理の手法による地域調べであり、あまり魅力を感じない。最低でも、学習指導要領で示した、「地理的見方・考え方」に即した調査方法であれば、もう少し魅力的なものになるのだが、そのような工夫はあまり見られない。

身近な地域は、子ども自身が生活している地域の学習を対象としており、地域とは何かを実感させられる単元である。地域が、社会や歴史が具体的に展開する場面であるが故に、地域にはさまざまな教材となりうる素材がある。その中で何をとり上げるのかは、どのような社会科地理をめざすのかという点から、規定される。私の実践では、子どもたちに社会科地理の学習対象を直接体験し、日本や世界を学習する課題や視点を与える場として位置づける。本書の実践の基本は、①地域は地域住民がつくる。②具体的に環境問題を取り上げ学習を深める。というものである。それ故、この視点から教材は選択される。何でもありの身近な地域学習ではない。

授業確保の視点から、こうした地域調査を総合的な学習の時間における地域調査で代替するという意見や、総合的な学習で地域を見るのだから、身近な地域の学習はいらないという意見がある。しかし、総合的な学習の時間を上記の視点から学年全体で取り組むのならそれはベストであるが、それはなかなか困難である。指導を全て社会科担当ができるわけではないし、社会科の視点からの地域学習の実現は困難である。社会科は社会科として地域を学習すべきである。

この実践をおこなったのは、私の2005年度の勤務校である草加市立栄中学校である。草加市は東京都に隣接した人口急増地域である。1963年に日本住宅公団が戸数約6000戸の松原団地を建設し、草加市の人口急増の契機となった。栄中学校は松原団地の北端に位置し、松原団地建設と同時に開校した。建設後40年を経過した松原団地は施設の老朽化が進み、建て替えが始まっている。

身近な地域調べの新たな役割

授業をしていて感じることだが、最近の子どもたちの多くは、耳からはいる情報は言葉の記号としては受け入れられるが、それを具体的な像として描くことは苦手である。この現実、地域の現実から出発する社会科地理としては、大きな痛手である。その要因はよくわからないが、①子どもたちの生育歴の中での体験不足、②幼児期からのゲーム漬けの生活、③さまざまな生育環境の激変による脳の発達の歪み、などが考えられるが、その点の究明は、専門家の研究に委ねたい。こうした子どもたちにある地域の現実と言葉の遊離を結びつける場が、身近な地域の学習であると考えられる。それ故、身近な地域で具体的に体験した地域の現実の中から、学習すべき社会科地理の学習対象を認識し、理解することが必要である。身近な地域の学習は従来は学習課題をつかむ場であり、学習指導要領によると地域を知り学び

方を学ぶとしているが、どの立場をとるにせよ、学習対象である地域の現実と抽象化された地域像を結びつける役割を、身近な地域の学習対象として付け加えたい。

校区調べは、自分の目と足で

身近な地域の学習の手だてであるが、まず、子どもの生活圏である校区調べをおこなう。ここでは、子どもたちを地域・地域住民と出会わせ地域の実態を把握することを目的とする。その上で、校区の課題を浮き彫りにしつつ、この実践の対象を具体的に学ぶ。次に、校区調べからわかった課題を、子どもが居住している地方自治体の課題として考える。ここで、子どもたちが調べた地域の実態を地方自治体という地域の構造の中で位置づける。

地域調査はインターネット全盛の時代であるが故に、机上でも地域調査記が可能である。あるいは、子どもによっては、小学校3年生の時の副教材を持ち出しすませる。しかし、地域は人間がつくるものであり、地域における人間の活動を無視して、地域を語るわけにはいかない。人間の活動なき地域調査は、地域の本質が見えない地域調査である。この事実がわかるためには、子どもたちが生活している地域に於いて、具体的に地域住民と出会わせ、調べ、その事実から学習対象を見だし、学習を進展させていくと、地域は人間がつくるということが実感として感じさせることができる。それ故、校区調べは、子どもが地域を歩き、自分の目で見て、地域住民と対話し、地域の実態を聞き取り、調査する方法をとる。

校区調べの手だて

中学社会科地理であまり聞き慣れない「校区調べ」は以下のようにおこなった。子ども自身が地域で歩いて調べざるを得ない状況をつくる。(展開の中の資料参照)

具体的には、以下のように展開した。

- ①調べるテーマについては、子どもに決めさせる。
- ②調べる時間は放課後か休日。
- ③調べるのはグループとする。グループは自由につくらせる。調べる時間の関係で集まりやすいグループが良いと思う。(生活班を使うことは止めた方が良い)
- ④約1ヶ月前にグループを決め調べるテーマや計画をつくらせる。調査期間を与える。ここで、具体的な調査計画を立てさせることが重要である。
- ⑤授業の中でまとめる時間を保障し、レポートを書かせ、発表会を行う。

したがって、授業の中で子どもたちと校外に出て地域を歩いたり、膨大な調べる時間を授業の中で削ぐ必要はない。また、子どもたちに調べ方を教科書の調べ方に沿って規定する必要はない。

調べる視点として、地域の移り変わりに注目させたい。地域的特徴の把握が学習指導要領で声高に叫ばれているが、そのこと自体は学習指導要領の記述は容認できる。(この事を具体化したはずの教科書の記述は容認しがたい) 地域的特徴は比較することでしか把握できない。現時点で他地域と比較することは困難なのである。それ故、地域の状況と過去と比較することによって地域的特徴を把握する。ここでいう地域的特徴は地域の移り変わりの中で形成されてきた。地域を変化の視点で見ていく中で、地域的特徴の形成がわかる。それ故、まずは地域は変わる、変えさせられるという地域形成の現場を見る事を大切にしたい。

【授業計画】

- ・第1時 校区調べの説明
- ・第2・3時 調べたことをまとめる。
- ・第4時 発表の準備をする。
- ・第5時 調べたことを発表しよう。

●この授業のねらい

- ①子ども達に調べる活動の見通しを持たせ、自ら校区を調べるという意欲付けをおこなう。
- ②グループを作る。
- ③活動計画を立てる。

この時間は、前単元の途中で突如組み込むことになる。そのため、プリントには「突然ですが」という文言を入れる。子どもたちは特に最近はその傾向が強いが、なかなか思考の切り替えが難しい。この時間の中心は、プリントの説明と計画の立案である。班づくりにも気を遣う。子ども集団の矛盾が少ない1学期だと、結構うまく進む。授業は次のように展開した。

●授業展開

- ・子どもたちに資料①文書を提示して、調査について説明した。ここでは、自分たちが地域を歩き、肌で感じ、地域で暮らす人々に話を聞いてまとめることの大切さを強調した。
- ・何もない中では調べられないだろうから、今まで調べたレポートを参考例で示した。(資料②は、地域の変化を地図上で示したものである。資料③は、地域の人達から直接意見を聞いてまとめたものである。)
- ・資料④を配り、調査計画書について説明した。(調査計画を決めることが大切であることを強調。資料⑤に調査計画書の例を示す。) また、直接インタビューする場合やアンケートする場合に、自分たちの立場を説明する文書(資料⑥)を帯同するように話した。同時に、調査時のマナーも話した。
- ・班づくりをする。(「班は自由につくって良いが、一人の班が出ないようにみんなで気を配ってあげなさい。」という点に配慮し、教室を回って調整する。)
- ・班ができたら、班の責任者を決める。
- ・班で調査計画を話し合う。教室を回って援助して回る。

あるクラスの班別の調査のテーマと調べ方

調査のテーマ	調査方法
団地について	お年寄りに聞く、家の人に聞く、学校の中で調べる。
せんべいの昔と今の人気ランキング	せんべい専門店に行き行って聞く。店に行き行って聞く。実際に食べてみる。おとしよりに聞く。
団地の建て替えについて	地域の人に聞く。実際にいって調べる。アンケート
約30年前の栄中付近と今の栄中付近の違い	近所の人に聞いてくる。親に聞いてみる。
昔の栄学区	そこらの住民に聞く。おばあちゃんにきく。
団地の建て替え	建て替えの資料、団地に住んでいる人の意見、自分たちの考え
駅周辺の移り変わり	まずみんなの家族や近所の人達に駅の周辺の様子を聞いて簡単な地図をつくりそれを一枚の地図にまとめて書く。それでも情報が足りなければ駅の周辺の人達に聞く。

計画を立ててから調査・まとめまで約1ヶ月を費やしている。途中で、時々責任者に声をかけ、進行状況をチェックする。中学1年生は、これだけでしっかり調べられる。子どもの力を信じていい。また、困ったときの相談にも乗ってあげる。授業後の立ち話が結構大切である。

2 調べたことをまとめ発表の準備をする

校区を調べる／第2・3・4時

●この授業のねらい

- ①資料の整理に見通しを持たせて、レポートを作成する。
- ②発表のしかたに関して見通しを持ち準備する。

「調べたことをまとめる」(第2・3時)、「発表の準備をする」(第4時)この3時間は、一体化して考える。当然のことだが、班によって進行状況が違うので、作業内容に厳密な時間配当はない。3時間で終わらせるという考えで取り組む。第2時のはじめにまとめ方についての説明をする。第3時のはじめに発表の準備についての説明をする。

●第2時の展開

- ・まとめる台紙としてのレポート用紙を配布する。
 - ・レポートは以下のことを注意して書くようにする。
- ①レポートのタイトル、班員の名前。
 - ②調べ方を書く。
 - ③調べたことを、見る人の立場になって、分かりやすく書く。
 - ④自分たちが考えたこと、思ったことをそれぞれ書く。
 - ⑤時間の節約と何もしない人をつくらないために、分担して作業して、あとで貼り付けてまとめるという方法もある。
- ・班でよく話し合っって進めること、困ったときはまず質問することを話してから、机を移動して、活動をはじめる。
 - ・教室を巡回して支援してまわる。
 - ・最後に今日の進行状況を発表する。

●第3時の展開

- ・最初に発表にしかたについて説明した。
- ①各班のレポートは、印刷して全員に配布する。
 - ②だからといって発表ではレポートをただ読むだけではない。
 - ③いいたいことを模造紙に書いたり、みんなで分担したりして、見てもわかるようにすること。
 - ④かならず、準備を終わらせること。できれば班内でリハーサルができるといい。
- ・以上のことを押さえて、班別の作業にはいる。中学1年生なので、発表に関しては、小学校で経験したことがベースになる。多様なものになることが予想されるが、今後のことを考えて、色々な発表方法を認める方向でいく。
- ※第4時はほぼ同じ流れでいく。発表の準備が遅れ気味の班に集中的に援助する。

●この授業のねらい

- ①各班の発表を通して、校区の実態を知る。
- ②自分たちの発表を聞いてもらうことによって、自分の活動の意味を確認する。
- ③仲間の発表を聞くことによって、また、自分が発表することによって、調べることの面白さを味わう。

●授業展開

- ・最初に次のことを押さえる。
- ①調べたこと自体を高く評価する。
 - ②自分の発表に自信を持って臨もう。
 - ③人の発表をよく聞こう。
 - ④わからないところ、もう少し説明して欲しいことは、どんどん質問する。
- ・以上のことを押さえて、発表にはいる。
 - ・発表に関して、子どもの質問は、説明が不十分な事が予想される。その場合は、教師が説明する。質問がなければ教師の方から質問する。
 - ・評価を適切にする。特に自分で歩いて調べたことを絶賛する。
 - ・最後に、校区調べのまとめを書く。(資料⑦)
- ※校区調べのレポートを資料⑧⑨に示す。